

2022 年度 第 1 回広報委員会 会議議事要旨

1. 日 時 2022 年 4 月 4 日（月）18:00～19:45
2. 方 式 Teams による Web 会議
3. 出席者 〔広報委員会及び HP 維持改善小委員会〕
 楠橋委員長、松澤副委員長、櫻井副委員長、佐伯(隆)副委員長、福田委員、古森委員、森本委員、山口委員、中井委員、伊達委員、中谷委員、徳井委員、森岡委員、長原委員、亀田委員、田上委員、小林委員 (記録：楠橋)

4. 議 事

〔凡例 ●：説明事項、 Q：質問、 A：回答、 →：コメント、意見、 枠内：決定事項〕

(1) 開会挨拶

〔会議開催目的について説明〕

- 2022 年度は西日本大会を控え、業務拡大のため副委員長を増員した。それに伴い、委員会内で 2022 年度行事と役割分担について早期確認のため。
- 4 月下旬に会報 No.24 の原稿執筆依頼を行うに伴い、No.24 のコンテンツと投稿規定改訂について討議するため。

(2) 2022 年度活動体制と年間スケジュール

1) 2022 年度広報委員会及び HP 維持・改善小委員会の体制 (2022.4.1 時点)

- 西日本大会論文集作成など、広報委員会業務が拡大されることなどから、副委員長を 3 名体制とし、新たに副委員長 2 名を増員する。
- HP 維持・改善小委員会も、委員長と副委員長計 4 名で対応する。

2) 2022 年度中国本部の主な事業予定

- 西日本大会、産学官合同セミナー等の主要行事について説明

3) 2022 年度広報委員会年間スケジュールと役割分担

- 会報発行・西日本大会論文集編纂を中心とした年間スケジュールについて、資料で説明。

→西日本大会について

- ・前回松江大会の時は、事務局（論文提出先）→部会で確認→広報委員会（読み合わせ）という流れで論文編集を行った。工程とスケジュールについて事務局に確認しておく。
- ・論文集の会場受取日など、印刷・発送スケジュールも確認しておく必要がある。

◎ 西日本大会論文編集手順とスケジュールの細部に関し、事務局と役割分担を明確にしておく。

(3) 2021 年度主要事業の振り返りと 2022 年度活動方針

1) 中国本部会報

a. コンテンツ

- 2021 年度に発行した会報 No.22 および No.23 について、発刊プロセスにおける課題を整理し、2022 年度発行予定の No.24 と No.25 のコンテンツについて確認した。

- 『シリーズ・技術者教育』は、中国本部でオーソライズされたものを発信するものである』
ということを明確に示す。
- 『シリーズ・技術者教育』については、会報 No.8 から長らく連載しており、どのように終了
するのかについても考えておいてはどうか。
- 当面は、『シリーズ・技術者教育』と倫理委員会から技術者倫理講演会の解説のような形で併
存していくのが良い。
- 倫理委員会は「倫理セミナー（5月と11月予定）」を開催するので、その報告をしてもらうこ
とも考えられる。そうすると『シリーズ・技術者教育』と併用もできる。

- ◎ No.24 では『シリーズ・技術者教育』、No.25 以降では倫理委員会による技術者倫理に関するテ
ーマとの併存を検討する。倫理委員会は、「倫理セミナー」の報告とすれば、技術者教育研究会
と併存もできる。
- ◎ 『シリーズ・技術者教育』の原稿執筆依頼は、自由投稿の原稿執筆依頼とは分けて、中国本部か
らの発信として別途執筆を依頼する。

b. 投稿規定の改定

- 改訂の趣旨は、中国本部発行の会報としてふさわしい内容であることを明示、ページ数等の
明確化、現行の投稿規定の表現を分かりやすく表示、図・写真等に対して容量や印刷仕上がり
（白黒印刷）を明示して投稿された原稿の見栄えの向上等を図ることとした。
- 「個人的な見解や意見の主張」→「著しく偏った見解や意見の主張」とした方が良い。
- 図や写真の容量抑制のためには、「Word の画像圧縮機能をご利用ください」としたら良い。
- 原稿執筆依頼の際に投稿規定を、原稿テンプレート共に添付して依頼をすれば良い。
- 投稿規定改訂版ができたならホームページに掲載すればよい。
- Q. 改訂された投稿規定はいつから適用になるか？
- A. No.24 から適用する。
- Q. 会員が学会誌等に投稿された論文で有意義なものを会報にも投稿することが増えたら、会報
の質の向上につながるかもしれない。
- A. 学会誌に掲載された記事の著作権は学会にあるので、学会の許可を得てそのまま投稿するか、
内容を見直すことになる。県支部会報で好評だった論文を、「県支部会報に掲載されたもので
ある」ことを明示して中国本部会報に掲載したことがある。

- ◎ 「個人的な見解や意見の主張」は「著しく偏った見解や意見の主張」に変更し、画像について
「Word の画像圧縮機能をご利用ください」と記す。
- ◎ 学会誌等に掲載された論文を流用する時は、学会の許可を得ることを追記する。

2) HP 監査内容の更新と自己監査

a. 2021 年度自己監査結果

- 中国本部及び県支部の自己監査結果について説明。
- 中国本部の会員ページにある事業報告・事業計画が更新されていないので、主要な会議や行事
の開催ごとの更新の項目が「未達」ではないか。

b. 2022 年度の方針

- 2022 年度は、2021 年度未達事項の改善と、活動報告や議事録を速やかに作成し更新することを呼び掛けていきたい。

◎ 可能な限り、事業開催ごとに速やかに、その都度更新する。

(4) 連絡事項**1) 2 月役員会 (2/26 開催)**

- ホームページの自己監査結果 (2/10 時点、中国本部のみ) の報告と、会報 No.23 の印刷製本費について役員会の承認を得たことを報告。

2) 統括本部合同広報委員会議 (2022 年 3 月 18 日 15 時~17 時)

- 合同広報委員会議の目的と、中国本部からの提案事項について説明
→ 統括本部合同広報委員会の趣旨は、統括本部と地域との連携を図り、月刊「技術士」のコンテンツの充実と、有意義な事案の水平展開を図りたい。

(5) その他**中国本部会報の PDF 化について**

- 中国本部役員会において、提案があった。印刷・製本はゼロにはならないが、経費節減は可能で、カラー化もできる。ただし、会誌購読者への対応と中国本部サーバーの容量圧迫が懸念される。(No.23 で 15MB 程度)

◎ 継続して実現可能性を検討していく。

◎ 過去の広報委員会諸資料を収集して、中国本部共有フォルダで一元管理できるようにする。

以 上